

平成28年度事業報告

(1)愛護会法人本部事務局事業報告

1. 総務課の業務課題と成果について

業務課題① 新規学卒者の積極採用をはじめとする、人材の確保策を検討し実施する。

成 果 リクナビの活用、合同企業説明会への参加などを主とする平成29年度の人材確保策をまとめた。

業務課題② 平成27年度の課題である給与制度を確実に実施する。

成 果 制度内容の再検討を行い、労使の合意を得て平成29年度当初から実施予定。

業務課題③ 多様な人材を福祉サービスに提供できるよう資質向上のための有資格者の養成を促進する。また、法人主催の①一般職員研修②現場管理職研修③経営幹部職員研修を実施する。

なお、昨年度と同様、新規採用職員を対象として、新採用職員講座を実施する。愛育研究所主体の部会別研修は引き続き支援する。

成 果 幹部職員研修ならびに新採用職員研修を実施し、法人職員の資質向上となった。

業務課題④ 平成27年度に引き続き法人本部事務職員研究会を実施し、福祉関係事務についての研修を実施する。研修による資質向上対策として、内部研修回数・内部研修講師経験回数など目標数値を設定しその達成度を確認する。

成 果 年間予定通り法人本部事務職員研究会を実施し、これによりさらに職員の資質が向上した。

業務課題⑤ 職員の心的疾患（うつ病等）の事例が全国的に増えてきていることから、ストレスチェックの実施、メンタルヘルスの学習会等の開催や、平成26年度策定した「心の健康づくり計画」を運用し、法人として貴重な人材の流出を防ぐ。

成 果 全職員を対象としたメンタルヘルスの学習会を全3回実施しストレスの対処法等を学び今後の業務に生かすことができた。また、ストレスチェックは平成28年11月に実施し前年度よりスコアが向上した。

業務課題⑥ 年次有給休暇の取得率向上をはじめとする、労働条件の向上の具体策を検討し実施する。

成 果 リフレッシュ休暇制度を導入し平成28年度は1日とした。これにより労働条件が向上し職員がさらに充実した支援ができるものと期待する。

- 業務課題⑦ 職員の安全衛生対策（労働災害防止対策）のさらなる向上の具体策を総務専門委員会とともに検討・実施する。
- 成 果 福祉施設の労災の多くが腰痛と転倒事故であり、パンフレットやチラシを配布し、防止対策をはかった。次年度以降も継続して実施していく。
- 業務課題⑧ 出張・研修会に積極的に参加し、先進地の視察を通じて効率的な法人運営基盤の検討を行う。
- 成 果 改正社会福祉法対応の研修会に参加し、その内容を業務に生かす等課題をある程度達成できた。
- 業務課題⑨ 前年度に引き続き将来の予算上適正な法人運営にするため、中長期にわたる人件費見込みの一覧を作成する。
- 成 果 給与制度の施行を優先したため一覧表を作成できなかった。次年度の継続課題としたい。

2. 財務課の業務課題と成果について

- 業務課題① 会計様式の検証と会計ルールの周知徹底
- 会計基準及び経理規程に基づく様式の検証と作成書類の軽減を含めた見直しを実施していくと共に、出納責任者会議等を通じて会計業務の一層の理解を図っていく。会計基準に対応した会計ソフト導入の検討もすすめる。
- 成 果 会計業務改善の一環として、顧問税理士に相談し、経理規程に基づき会計諸帳簿の様式の見直しを実施した。また、従来使用していた会計システム（東経システム）に運用上の不具合等があり、平成 29 年度から新しく CIJ ソリューションズ ㈱の会計ソフト SWING を導入運用することが決定し、より正確で効率的な計算書類の作成を図ることになった。
- 業務課題② 業務管理
- 会計基準及び経理規程に基づいた正確な業務処理、効率的な業務処理による適切な会計処理に努めると共に、ルールに則った手続の励行に取り組む。
- 成 果 経理規程の改定に伴う各種申請書類の変更点等を出納責任者会議にて各施設の出納責任者に対し周知を図り、ルールに沿った手続きの徹底に取り組んだ。
- 業務課題③ 適切な会計記録
- ・ 会計監査人の設置に向けて、明確な収集経路と権限者による承認に基づく会計記録、遅滞のない処理により信頼性の確保に努めていく。
 - ・ 会計書類の証跡の整理と保存及び内部けん制体制の検証と見直しに取り組む。

・事業経営の透明性確保のため、情報開示に対応した会計基準による財務諸表の作成と公開を行う。

成 果 会計監査人の設置に向けて、研修会等に参加し情報収集に取り組んだ。正確な各種証憑書類の作成と、経営指標の判断となる試算表等の遅延のない提出により信頼性の確保に努めた。事業経営の透明性確保のため、会計基準に基づいた計算書類を作成し、他課の協力を得てホームページ等インターネットで情報の公開を行っている。内部牽制が有効に機能する会計資料の様式整備と、作成書類の効率化及び省力化については、顧問税理士等の専門家の助言を得ながら引き続き的確に進めていく。

業務課題④ 予算管理・統制

各事業部会での事業計画に基づく予算の執行状況について、月次資料による予算との比較照合、具体的な内容の検討を四半期毎に実施し、差異の内容を確認し、事業計画達成のため遂行状況を的確に把握していく。併せて、各事業部会、各施設での中期整備事業計画に基づく資金確保と長期的な財務状況の安定に向けて各事業部会と協調して取り組んでいくと共に、内部留保の明確化を図るため社会福祉充実残額算定に必要な情報の収集と算定資料の作成を行う。

成 果 各事業部会の事業計画に基づく予算の執行状況について、出納責任者会議等で比較照合し、事業計画達成のため遂行状況を会議全体で把握していく予定でしたが、不十分であった。現在の積立金をどのように活用し、限られた予算の中で不足分をどのように調達していくか、今後開催される出納責任者会議等で協議を進めていくこととする。必要とされる資金について、施設内で確保できない場合は部会内で、部会内で確保できない場合は法人全体で取り組むことが必要となるため、各部会と協調して、収支バランスの改善に向けた資金計画と資金管理の取組みをおこなうことにより財務面での長期的な安定に努めていく。

3. 施設課の業務課題と成果について

業務課題① 既存施設の営繕管理業務

営繕整備5ヵ年計画に則り整備を進める予定としているが、突発的な営繕等も想定されることから、十分に施設長及び施設営繕管理担当者と連絡確認しながら実施する。

また、定期的に施設営繕管理担当者会議を開催し、施設整備状況や環境整備状況と併せて常に現状把握に努め改善する。

成 果 施設営繕担当者会議の際に、施設の小修繕状況や課題・問題点について情報の共有化を図り、建物、設備・機器の老朽化について年次計画を作成することにより、修繕や設備・機器の買換えを実施することができた。

なお、東水沢保育園移転改築については理事会、評議員会の承認により、基本設計を基にした内容で奥州市と国庫補助対象事業の契約によって実施設計等を終え、次年度の建築へ向けた工事入札業者の選定まで完了した。

(昭和50年開園後42年、昭和56年増築後36年)

障がい者支援においては、食事提供の場の温度管理(調理温度との別)や受注作業環境温度の適正化を図ることで衛生管理を徹底したサービスの提供と製品の納入が可能となる改善を進めることができた。

また、小型重機の導入により作業能率の向上、1日に数トンの受注品の移動に伴う業務の省力化と効率化を図ることが可能となった。

なお、生活環境では、出入口扉の改修を行うことにより開口幅を広げ、日常生活環境の改善と災害時の避難動線の向上を図ることができた。

業務課題② 施設整備に関する調査・研究

成 果 法人経営施設に必要な建物設備一覧表の改正内容の整理及び追加を進めた。

また、建築基準法及び消防法の改正に伴い、共同生活援助(グループホーム)が一般住宅の扱いから、小規模福祉施設若しくは宿舎へ変更されたことで、消防設備の変更や建物基準(材料、設備、施工方法)について新たに調査・研究を開始した。

業務課題③ 防災管理(防災対策)

災害を未然に防ぐことが重要であり、防災点検や各施設の避難訓練等を通じながら、防災意識の啓蒙に務める。

また、福祉の森自衛消防隊による出動を行い、防災意識の徹底を図る。

成 果 防火点検を継続的に実施しているため、暖房器具や電気器具等の管理方法の確認や周辺状況の徹底により、火災につながるような危険個所の改善に取組み無災害を続けることができている。

また、グループホーム等の整備や設備・機器等の設置に伴う消防署との連絡調整及び、関係書類の届け出を行うことにより消防法等に則った安全の確保に努めることができた。

業務課題④ 公用車管理

自主点検の徹底を図ることは勿論のこと、不都合や不備な箇所があった場合には、早急に修理等を行い利用者の安全第一に備えた整備の充実を図る。

また、職員の啓蒙活動として、安全運転励行の徹底を図る。

成 果 毎月の自主点検と車両の使用前点検等による、消耗部品や保安部品の適切な交換や、車検・定期点検、車両のリコール情報を国土交通省のホームページから情報を得ることにより、事故等につながる危険度を検討し、車両の運行可否など迅速な対応により修理対応等を進めることができた。

さらに事故防止活動として、年5回行われている全国・県民交通安全週間の重点項目及び、季節に応じて独自に注意点をまとめたポスターを作成することで、自転車や乗用装置の安全利用の促進を行った。

なお、公用車の安全運行については、年4回開催している公用車管理運営委員会の際に事故・破損の発生状況を確認し、安全運転の徹底を図った。施設単位でも安全運転に対する啓発活動を進め、小さな物損事故や破損等はあったが、特に危険な故障等は発生しておらず比較的安全に運行することができた

4. 地域福祉課の業務課題と成果について

業務課題① 地域活動支援センター及び生活介護事業所の利用促進

- ・愛護会法人本部・経営施設等事業計画書および愛護会地域生活支援事業計画に基づいて、地域活動支援センターおよび生活介護事業所が、地域に暮らす利用者の要望に沿ったサービスの拡充を図る為の支援と調整を行う。
- ・地域活動支援センターおよび生活介護事業所の利用促進の為の支援を行っていく。

成 果 ・地域活動支援センター利用および生活介護事業所ときわ寮改修に係る連絡会議を5月に開催し、年度の活動計画を確認した。

業務課題② 愛護会地域福祉推進協議会の活動

- ・愛護会地域福祉推進協議会は「たくましい子を生み育てるための保育事業」と「障がい者の生き甲斐を保障する環境（社会）づくりとしての援護事業」を進めて来た愛護会の施設福祉で得た専門性を地域福祉活動に還元する。
- ・愛護会地域福祉推進協議会は胆江地域を一つのエリアとして地域福祉の向上を図ることを目的に設置された。本部は本部事業計画に基づき、また各支部は支部総会を開催、活動計画を作成し支部活動を自主的に展開していく。
- ・愛護会地域福祉推進協議会の大きな組織力を活用し、地域住民の方々の要望や意見などを聞きながら安心安全な地域社会に価値ある貢献をしていく。
- ・活動強化するためには、支部会員の加入拡大が重要な要素である。会の活動理念を理解し支部の強化ならびに地域福祉の向上を図る。

成 果 ・各支部とも支部懇談会を開催して平成 28 年度計画を策定し、計画に沿って進めた。

・平成 28 年 7 月 31 日開催の平成 28 年度愛護会地域福祉推進協議会定期総会に於いて、平成 27 年度の活動報告及び平成 28 年度の活動計画の発表を行い、活動の周知を図った。

業務課題③ 職員の資質向上

- ・愛護会立愛育研究所の事務局として、各種研修や職員の一人一研究等の調整・推進をする事により愛護会職員の資質およびサービスの向上を図る。

成 果 ・毎月開催の愛育研究所事務局会議に於いて、各部会の研修状況の確認と情報共有を行った。

・平成 28 年 7 月 31 日に愛護会職員公開研究発表大会を開催し、職員の資質向上及び地域への情報発信を行った。

・愛護会地域福祉推進協議会との上映会共催など、他組織と共同の活動を行った。

業務課題④ 広報活動の推進

- ・愛護会地域福祉推進協議会広報誌「愛護の友」発行により愛護会の活動状況を地域に広く伝えながら、地域に理解が得られる広報活動をしていく。
 - ・愛護会ホームページの活用と充実を図りながらより多くの方々へ情報を提供していく。
- 成 果
- ・愛護の友による紙面での情報発信は充分でなかったが、愛護会ホームページを活用したリアルタイムの情報発信を行った。
 - ・愛護会HPの見直しを実施。
- 各施設の管理担当者との連絡調整により、内容の充実を図った。
- 愛護会HP操作マニュアルの作成および各施設での講習を実施した。

5. 権利擁護課の業務課題と成果について

業務課題① 福祉サービスの充実と向上に関すること

- ・苦情解決規程に基づく、苦情解決体制の強化
 - ・福祉サービスに関する苦情、要望相談会の実施
 - ・福祉サービスに関するアンケート調査の実施
- 成 果
- ・利用者並びに保護者に対して、苦情解決制度の周知徹底を図ることを目的に、苦情解決のしくみについてHPや広報誌への掲載を行った。また、施設に寄せられた要望等の集約を定期的に行っていることにより、情報の共有化を図る事、福祉サービスの改善事項として施設運営に役立てることができた。
- 今後はリーフレット作成を行うなど、制度の普及や周知徹底について強化を図り、利用者が気兼ねなく要望を出しやすいような環境整備をしていく。
- ・愛護家族会研修会の開催に合わせて、保護者を対象とした相談会の開催を行った。第8回目となる今年度については相談件数0件だったが、今後も相談の機会を積極的に設け、利用関係者の皆さまに安心感をもってサービスを利用してもらい、法人自らが福祉サービスの資質及び水準の向上を図っていることを理解してもらう機会とし、来年度以降も継続して開催する予定でいる。
 - ・昨年度に引き続き、利用者並びに保護者・家族を対象に、経営施設における福祉サービスに関するアンケート調査を実施した。これにより、福祉サービスに対する利用者・保護者の意向や要望を把握でき、福祉サービスの向上に向けた具体的な取り組みに役立てることができた。

業務課題② 苦情解決制度の充実に関すること

- ・業務課題①と同様の項目で実施した。
- 成 果
- ・業務課題①と同様の成果が上がった。

業務課題③ 成年後見制度の利用促進に関すること

- ・後見人審判決定者14名について、家庭裁判所へ提出する後見人活動事務報告書の作成支援業務と、後見人活動についての相談支援業務並びに申立て支援業

務の実施。

- 成 果
- ・成年後見制度を学んでもらうための学習会開催。
 - ・利用者が自分の意思に基づいた選択や決定が可能となり、利用者の社会参加の機会が増えている。また、財産侵害の恐れがある利用者のセーフティネットとしての役割も果たしている。保護者等縁故者の死亡により、保護者が不在となった場合の契約代理人保護者として、利用者の身元引受人的役割を果たす等の効果を上げており、今後も制度に係る利用支援をしていく。
 - ・12月開催の愛護家族会研修会に併せて実施した。
講師に佐々木秀康氏（元衣川村長）をお招きし、保護者・職員を対象に実施した。平成19年度から始まった継続的な学習会の開催により、成年後見制度に関する理解が深まり、制度利用を希望する保護者が増加していることから、今後も継続して実施していく。

業務課題④ 受託年金管理業務に関すること

- 成 果
- ・4・5月に愛護会受託年金役員会と愛護受託年金総会を実施する。愛護会受託年金管理事務規定に則った年金管理業務の実施。
 - ・利用者の金融機関利用支援の実施。
 - ・平成29年3月31日現在における年金管理委員会委託者213名、預り金合計額は約8億7千万円となっている。4・5月に愛護会受託年金役員会と愛護受託年金総会をそれぞれ開催した。役員会・総会においては、保護者との交流、情報交換の機会にもなっており、家庭送金の取扱いや利用者の生きがいを保証する年金の活用について話し合う良い機会となった。
 - ・利用者が金融機関に行って利用することで、利用者の金銭に対する意識に変化が見られており、取組みにおいて成果が見られることから、今後も継続して実施していく。

業務課題⑤ 利用者の虐待防止に関すること

- 成 果
- ・各施設との虐待についての情報の共有化を図り、虐待防止に努めていく。
 - ・各施設と連絡を取り合い、虐待についての情報収集に努めている。
今年度は虐待の報告は1件も出なかった。今後も各施設と連絡を取り合い、情報の収集と、リーフレットの作成をするなどし、虐待防止に努めたい。

業務課題⑥ 補導委託に関すること

- 成 果
- ・補導委託者の受け入れと支援の実施。
 - ・家庭裁判所への連絡と文書の提出、及び家族との連絡調整を図っていく。
 - ・現在、盛岡家庭裁判所並びに仙台家庭裁判所の補導委託先として登録を行って

いる。対象者の更生に向けた支援体制や愛護会の事業実績や環境については、家庭裁判所からも高い評価を頂いている。また、社会福祉現場での様々な活動や、利用者との触れ合いを通し、対象者が自己を見つめなおし、更生につなげていく支援は大きな社会貢献活動となっていることから、今後も受け入れの要請があった際には、施設と連携を図りながら、その役目を果たせるよう努力していく。

業務課題⑦ 顧問弁護士の連絡調整

- | | | |
|---|---|--|
| 成 | 果 | <ul style="list-style-type: none">・ 懸案事項発生の場合は、顧問弁護士と密に連絡調整を図っていく。・ 今年度は懸案事項発生はなく、弁護士に連絡を取る必要はなかった。 今後も、懸案事項発生の場合は、引き続き顧問弁護士と連絡を密にとっていくようにする。 |
|---|---|--|

(2) 保育事業部会報告

1. 部会全体の取り組みの状況

① 職員の有する能力を充分に発揮できる施設経営体制を整える。

[取り組み状況]

- ・全国レベル、北海道・東北大会レベル研修には、園長・副園長・主任保育士等が1～2回は参加できた。
- ・県内・胆江地区内研修には、正職員、臨時職員が1～2回は参加できた。
- ・部会として講師を招いての研修・部会内公開研修や研修講座も予定通り出来た。

[課題]

- ・職員数の状況により、計画した研修への参加が難しくなりつつある。

② 利用者の願いを満足させるサービス提供を確立する。

[取り組み状況]

- ・保育参加日、クラス懇談会、保護者保育懇談会は予定通り保護者より意見をだして頂き一緒に計画を立て、行った。
- ・園の行事には父母会より参加して頂き、多くの協力を得ることができた。保育園への満足度アップにもなった。

[課題]

- ・保育内容の研究を常に行い、マンネリ化になっていないかを振り返る。
- ・常に保護者の考えや要望を汲み取る職員になる。保護者一人ひとりの考えを大事にする。

③ 自らの手により策定した「倫理綱領・職員行動指針」を遵守し、職場規律を確立し、世の信頼を高める。

[取り組み状況]

- ・年度初めに倫理綱領・職員行動指針を全職員参加で読み合わせを行い、新年度新しい気持ちで保育に取り組む意識を持つようにした。

[課題]

- ・職員一人ひとり自らの行動を反省し、規律を確立しているかについての自己評価のあり方を考えたい。

④ 利用者の権利擁護を考える保育サービスに努める。

[取り組み状況]

- ・保護者との個別面談を4～5月で行い、家庭での様子を伺い、丁寧に関わった。家庭での保育についての相談を受け、話し合った。
- ・特別配慮の必要な子どもについては園全体で検討し、専門機関へつなげるようにした。専門機関と連絡を取りながら指導助言を頂いた。

[課題]

- ・特別配慮が必要な子どもたちの検査や指導を行う専門機関があまりにも少なく保護者が熱心でなければ検査を受けることも難しい状態にある。
- ・県・市・町への働きかけを更に強化する。

⑤ 事業の安定、保育園の持つ様々なノウハウを地域の為に提供する。

[取り組み状況]

- ・金ケ崎保育園は子ども鹿踊り、うたの花束等、町行事に参加、又町のシニアスポーツ大会にも出場し、老人交流、アトラクションへの協力もできた。
- ・東水沢保育園は、太鼓「妖精のかがやき」は、国体では奥州市採火炬火式に出席、わんこダンスも披露、応援旗作成をして、各県の応援協力をした。
- ・たんぼぼ保育園は、鬼剣舞で町の夏祭り他、地区敬老会、南方文化祭、その他で7回程協力参加をした。
- ・第二東水沢保育園はJ Aまつり、原中5区祭りの太鼓出席、老人施設2か所でお遊戯の披露、J Aまつりのイベント、いちごまつりにもお客さんとして参加協力した。

[課題]

- ・地域の様々な施設でイベントのアトラクションとしての出演の依頼があり、できるだけ都合もつけ、出演や参加もさせて頂いているが、付き添いの職員不足や、土曜、日曜、祭日の行事も多く職員配置に難しさがある。

2. 各施設の具体的運営課題に対する取り組み内容と成果

①金ケ崎保育園

〈平成28年度事業計画の総括〉

金ケ崎町の子育てプランに合わせ、乳幼児保育の充実をはかり、保育所の特性である地域密着性を活かし、地域に根ざした保育活動を展開した。また、多様な保育サービスの推進に努め、あらゆるニーズに応える保育所としての役割を十分に果たし、実践を進めた。国、県、町の動向(子ども子育て新システム関連3法)を注視する。

イ 保護者や地域ニーズに応えるサービス提供組織として、乳児保育、延長保育、障がい児保育、休日保育、病児保育事業を行った。特に休日保育は、39回、81名の利用があり、保護者の要望に十分応えることができた。

ロ 専門的支援活動の推進

ホームページは年間116回の更新をおこない、地域への子育ての情報を提供してきた。また、園開放7回、育児相談34件、金ケ崎町1歳6ヶ月健診への協力7回、金ケ崎町離乳食教室4回を行った。特に保護者や保育実習生等からホームページを楽しみにしているとの声があった。また、子育て支援センターとの交流も数回持ち、園内の子育て相談は勿論のこと、地域における子育て支援活動の推進に努めてきた。

ハ 地域社会資源の積極的活用

地域交流の拡大と言うことで、社会資源の見直しを行い、計画を立てたことにより、確実に実行出来た。また、園児中心の地域交流にとどまらず、職員の地域社会貢献にもつながり、地域へも発信することができた。このように「地域と共に」取り組み、その中で豊かな人間関係と思いやり、優しい心が育った。

二 保育園食育指導の充実

「食を営む力」を育むため、園の畑風の子農園で収穫した野菜を利用してのおやつ作りを行い、

親子クッキングを楽しんだ。また、毎日の給食の展示や、作品展示会での展示、給食だより等では食事に関するアドバイスをを行い、地域へ発信するなどの取り組みを行った。

ホ 職員の資質の向上

乳幼児の身体リズム運動遊びについて全職員で取り組んだ。外部講師研修を1回行い、実技を学んだ。部会内研修は、5歳児交流が3回、保育実践を見学・話し合いを4回行い学習した。また、「メンタルヘルス研修」「子どもの食事」「児童福祉の現状と未来」について学習し、保育の質の向上と、職員の資質の向上に努めた。

ヘ 郷土文化伝承の推進

郷土に伝わるより良い文化を子ども達に伝えるため、昭和54年から皆白行山流三ヶ尻鹿踊り保存会の方から、協力・指導を受けながら「子ども鹿踊り」を保育に取り入れてきた。保存会の方が来園し、全園児・職員の目の前で踊りその姿に感動し年長児が取り組みを始める。また、職員が毎年保存会の方に踊りと太鼓の指導を受け、職員間で後輩保育士に伝えながら、地域の様々な行事等で披露し、子育て文化を地域に発信した。

《平成29年度具体的経営の課題》

- イ 保護者や地域ニーズに応えるサービス提供組織として、保護者や地域の多様なニーズに対応し、乳幼児の発達を尊び、家庭との連携を密にしていく保育を展開する。
- ロ 町の福祉行政や他の専門機関との連携を図り、子育てネットワーク作りを進めながら地域における子育て支援を行う。
- ハ 地域社会資源の積極的活用
- ニ 「食を営む力」を育むため、保護者、家庭、地域との連携を深める。「食べる」ことや「いのち」への関心を高め、子どもの健やかな心と身体の健全育成を促していく。
- ホ 職員の資質の向上
- ヘ 職員一人ひとりが、たくましい子を生み育てる保育の実践と研究を進める。
- ト 郷土文化伝承活動「子ども鹿踊り」を保育に取り入れ、地域の子育て文化を地域に発信していく。

②東水沢保育園

〈平成28年度事業計画の総括〉

民家活用による分室を備え、市内最長の延長保育、乳児保育、子育て支援拠点事業を行い、地域ニーズに応えた。園舎改築に取り組む。

イ 「地域と共に」の展開として

地区民、民生委員、老人クラブの方々においでいただき、分室お花見会、ちぎり絵教室、しめ縄作り、餅つき、ひな祭り会を一緒に楽しみ交流を深め、地域に根ざした保育となった。

ロ 分室効果を活かし乳児保育の充実

高校生の保育体験を積極的に受入れ延べ人数は258名であった。又職場体験も36名の受け入れを行った。子どもの遊ぶ姿、食事、排泄等の発達の変化を知り、子どもの成長のすばらしさ、関わり方の大切さを知る機会となった。保育体験からボランティアにも参加し、未来の保護者となり「たくましい子を生み育てる」の基礎を知らせることにつながった。

ハ 地域社会資源の活用

花駒さんより国体の取り組みの一貫として競馬場への花いっぱい活動への協力で種だんご作りを行った。国体への参加協力のもう一つとして、わんこ先生よりわんこダンスを教えてくださいと奥州市採火炬火式に出席。卓球会場のZアリーナでは開会式に出席しワンコダンスを披露した。又虹色サポーターとして各県の応援の旗を作り応援した。水沢第一高等学校の吹奏学部、邦楽部そしてお茶の稽古、手造りおもちゃ講習会、バイオリンと電子ピアノの演奏等、本物に触れ豊かな感性を育てることにつながった。又近所のおばあちゃん2名による昔話を聞く会では、ゆっくりとした話し方にほっとする時間を持てた。

畑活動は、各クラス沢山の種類を植え観察し食した。(おいもパーティー、カレー作り、ゆで落花生等)みそ作り、黒石の梅さんより郷土料理を教わった。

園外活動は自然・公共施設等に出向く機会を多く持った。文化の伝承は「妖精の輝き」の太鼓披露をした。(福祉の森秋祭り、宇宙遊学館)

二 地域の子育て支援の充実

- ・情報の収集およびホームページを活用し情報を発信した。
- ・地域に出向いた訪問保育を行い、離乳食体験、幼児食体験、子育て講座、調理講座、遊ぼう会等を行い積極的に子育て支援事業に取り組み、参加者も多くなっている。ベビーマッサージは支援担当の藤井が資格を取り指導し参加者が多く次回も開催を希望する保護者が多かった。
- ・参加者のお母さんの得意とすることを講座として取り入れ、「役だっている」という自信へとつなげることができた。(手形アート、ラッピング講座等)
- ・他施設の支援センター、サークル等と交流を持ち、サークルを立ち上げることにもつながった。

ホ 「食を営む力」

- ・奥州市の栄養士と一緒に調理講座を行った。(2回)
- ・保育参加日にクラスごとに栄養士から話す機会を設け、「食を営む力」を育み、保護者・家庭・地域との連携を深めた。
- ・肥満傾向にある子への対応は、園と家庭との様子を知ることによって少しずつ効果が現れてきている。
- ・園児の保護者に対しても調理講座を行った。

ヘ 職員の資質向上

- ・各研修会に参加し職員会議で伝講し共通理解をはかった。
- ・クラス別会議をもうけ発達の研修や保育の方法等、クラス担当職員、主任、副園長、園長とで話し合ったことで、気づきにつながり向上できた。
- ・身体リズム運動遊びを積極的に取り入れ、心と身体の発達を促すことにつながった。又4園リズム交流会を2回行い取り組み方や声掛け等他園と違い、すばらしいところの発見となった。公開も3回行った。

ト 「たくましい子を生み育てる保育の実践と研究」を行いながら、実践集をまとめた。

《平成29年度具体的経営の課題》

- イ 「地域と共に」の展開として、地区民、民生委員、老人クラブ、中高生、ボランティアとの交流を深め、地域に根ざした保育活動を展開する。関係機関との連携をはかる。(障がい児保育)
- ロ 分室効果を活かし乳児保育の充実に努めると共に、高校生の保育体験を積極的に受け入れる。
- ハ 地域社会資源の活用。
- ニ 地域の子育て支援情報の収集およびホームページを活用し情報を発信する。
訪問保育・離乳食体験・幼児食体験・子育て講座・調理講座等の充実をはかる。
新しい地域の方との交流をはかる。
- ホ 「食を営む力」を育むため、保護者・家庭・地域との連携を深める。(地産地消・風の子農園)
元気な身体がわかる、料理する、味がわかる、食べ物の育ちを知る。
- ヘ 職員の資質向上
自己評価の実施。個々の課題に取り組む。
保育サービスの利用者意向調査による「気づき」と「改善」に努める。
- ト 「たくましい子を生み育てる保育の実践と研究」をすすめる。

③たんぽぽ保育園

〈平成 28 年度事業計画の総括〉

地域に根ざした保育活動を広げ、地域の様々な人たちとの交流を深めながら、地域交流型保育園として、次の事項を行った。

- イ 地域との交流の充実
 - ・ 南方地区自治会長・民生児童委員と子ども祭り 4 名、南方地区 6 つの老人クラブと、七夕まつり 11 名、収穫祭 7 名、小正月行事 10 名、豆まき集会 11 名、を招待して交流した。
 - ・ 夏休み保育体験で金小 45 名、金中 18 名、金高 16 名の生徒と交流した。
- ロ 郷土文化伝承の促進
 - ・ 地域に伝わる「鬼剣舞」を年長組の保育に取り入れ、金ヶ崎町夏祭り・地区敬老会・運動会・福祉の森秋祭り・南方地区文化祭・宇宙銀河フェスタ・老人演芸大会で 7 回披露して、地域への子育て文化を発信した。
- ハ 町や関係機関との連携
 - ・ 町から委託されている療育教室（チューリップ広場）を 46 回実施した。
- ニ 地域の多様なニーズに合わせた子育て支援
 - ・ 全保護者を対象の子育て講演会 4 回行った。
 - ・ 保護者の保育体験を企画し、一日保育士として、午前中は保育、給食・午睡の体験をした後、午後は個別面談をした。実際に園での様子、保育士の関わり方を見ることで、子どもの見方、接し方がわかり午後の面談は深まることができた。5～11 月に 54 名の保護者が参加、好評であった。
 - ・ 一時預かり保育では、入所していない地域の子どもを 258 名受け入れた。
- ホ 畑づくりを通して、幼児期の働く喜びと食の心を育む。
 - ・ 地域の方の好意で畑を 2 箇所お借りして、地域の方と一緒に畑づくり、収穫ができた。
- ヘ 保育園食指導の充実
 - ・ 保護者の保育体験の日に、子どもと同じおかず給食を試食することにより食育の大切さを啓

蒙した。

- ・誕生日当日は、その子のために特別メニューを特別皿で提供して、食べることの楽しさを伝えた。

ト 職員の資質向上

- ・事故防止対策として、園外保育は下見など、徹底した計画を立てて実行した。
- ・愛護会 4 園の保育園の年長組の合同リズム運動遊び交流会を 3 回企画し、職員・園児のレベル向上ができた。また、各保育園の身体リズム運動遊びの公開も 4 回企画し、職員のレベル向上につながった。

《平成 29 年度具体的経営の課題》

イ 地域の様々な人々との交流を深める。

ロ 郷土文化伝承活動に鬼剣舞を取り入れる。

ハ 地域の多様なニーズに合わせ、保育園を利用していない子どもを含めた「すべての子どもと子育て家庭」の支援をする。

ニ 金ケ崎町や関係機関との連携を図りながら、子育てネットワーク作りを進め、地域の子育て支援を行う

ホ 畑づくり等を通し、幼児期の働く喜びと食の心を育む。

ヘ 保育園食指導の充実

「食を営む力」を育むため、保護者、家族、地域との連携を深め、食べることや命への関心を高め、子どもの健やかな心と身体の健全育成を促していく。

ト 職員の資質向上

④第二東水沢保育園

〈平成 28 年度事業計画の総括〉

国、県、市の動向、子ども子育て新システム関連 3 法を注視しながら延長保育、障がい児保育、病児病後児事業(体調不良対応型)、一時預かり保育、学童保育事業を行い、地域のニーズに応える。地域子育て支援の役割を十分に果たす実践を進めた。

イ 子育てコミュニティの再生・創造を目指す

- ・地域の行事に参加し地域交流ができた。「JA産直来夢くん」よりいちご園オープンイベントに収穫協力。秋の創業祭には、年長組が太鼓演奏の依頼を受け協力。来客に感動させることができ、JAさんからも感謝された。
- ・東水沢保育園との合同子ども祭りは、原中 5 区町内会皆様に案内、今年もよろしくお願いしますと、挨拶、地域の皆様からも歓迎ご理解されている。
- ・地域老人とのふれあい、お弁当運び、小正月、もちつき会、ひな祭りなど、昔からの行事に招待し、子ども達におじいちゃん、おばあちゃんの優しさを伝えて頂いた。
- ・原中信用金庫さんの協力を得て、風の子農園で収穫した野菜販売をさせて頂いた。保育園の活動を写真で紹介(月 2 回)地域の方々に子どもの様子を知って頂いて関心を持って頂いている。
- ・原中 5 区町内会、瀬台野地区、長泉寺さんの行事には、園の備品を利用いただくことで、地

域貢献をしている。

- ・避難訓練には、町内会役員の方々や近隣住民の方々に参加して頂き避難誘導のお手伝いを頂いている。

ロ 各種事業を連携的に展開することで、充実した保育事業を目指す

- ・生後2か月からの保育を受け入れる。乳児保育19名。
- ・一時預かり保育実施 年間 81名
- ・各種専門機関との連携による障がい児の受け入れ、重度児が3名、軽度児が2名。支援員と保育士を加配し、同年齢クラスで保育をした。県立療育センター、小児精神病院、市療育センター、県立支援学校との連携もスムーズになっている。
- ・学童保育「風の子クラブ」登録児童数 31名
- ・中高生ボランティア受け入れ 41名 保育体験（中・高生） 236名

ハ 地域社会資源の活用・畑教育・園外活動等、創意工夫の保育に取り組み、子どもの豊かな体験、感動を保護者も一緒に感じ、保育力を高める。

- ・風の子農園で育てた野菜は、地域の方々や保護者の方々に販売し、その収益は、社会福祉協議会を通して、全額寄付をしている。助け合いの心を育んでいる。
- ・5歳児合宿は、新地開発、大東町の室根山登山奥羽山脈から胆沢平野、広田湾まで一望、雄大な自然を感じ、感動体験をさせた。
- ・学童親子学習。黒石地区、あじろ滝の沢歩きや滝つぼなど、郷土の自然体験と親子の楽しい体験ができた。
- ・災害復興支援ホープラザ会員さんと学童の交流会にて、タオル人形作りや新聞紙のブローチ作りを教えていただき、老人と学童の踊りや遊びの交流をさせて頂いた。

ニ 「食を営む力」を育むため保護者、家庭、地域との連携を深める。

- ・風の子農園の収穫物で園児がクッキングを行い、作る楽しさや、食事で体がつくられることなどの教育を行った。
- ・保育参加日を利用し、親子でクッキングの体験を行いながら、食の大切さや、安全、安心の食についての学習を行った。
- ・学童は、おやつ作りを通して、食への興味関心を教育できた。
- ・文化祭の食テーマは、「家族で減塩食 子どもの味覚を育てよう」で、塩を減らすための工夫で「だし」を作って味付けするとおいしくなることを指導できた。

ホ 職員の資質向上を目指して

- ・外部研修会への参加

岩手県保育協議会開催各種研修会	5回
胆江地区保育協議会開催研究会	11回
奥州市教育委員会開催研修会	2回
奥州市私立保育園協議会開催研修会	2回
発達支援関係研修会	5回

- ・保育事業部会研修

リズム運動あそび公開を行った。各園1回計4回。職員の意見交換ができ、研修となった。
5歳児交流リズム研修は、各園のリズムを見せ合いながら指導のあり方を学びあうことがで

きた。

- へ たくましい子を生み育てる実践と研究をすすめる
一人一研究としてテーマを決めて実践している。
- ト 個別面談を大切に行い、保護者と共に保育、子育てを行い、お互いの保育力を高めあう
4・5歳児は、保育での個別面談、0・1・2・3歳児は、家庭訪問を行い、親しく話し合うことができ、個別の育児相談などもあった。参加日等での子どもの姿を共通話題とすることができ、話しはスムーズにできた家庭が多かった。

《平成 29 年度具体的経営の課題》

- イ 地域みなさんと様々な交流をさせていただくことで、地域子育て力を高め、保育園、地域ともに子育てコミュニティの創造をすすめる。
- ロ 様々な地域社会資源を積極的に活用し、創意工夫の保育に取り組み、子ども、保護者と一緒に感動を高める。
- ハ クッキング保育や文化祭等を通して「食を営む力」を育む。
- ニ 各種保育事業に取り組み展開する事で、充実した保育事業を豊かに行う。
- ホ 保護者と語り合う面談や家庭訪問を行い、お互いの保育力を高める。親に信頼される保育園を目指す。
- へ 常に研究や研修を行い、保育者としての力量を高め、資質向上を目指す。

⑤金ケ崎町子育て支援センター

〈平成 28 年度事業計画の総括〉

「子ども子育て支援事業計画」に基づく地域子育て拠点 3 事業のうち「センター型」を金ケ崎町全域対象に展開した。実施にあたっては保育園も含めた地域の機関、団体と連携して地域支援活動を展開した。

- イ 地域に根差した拠点としていつでも誰でも楽しく利用できる交流の場の提供
 - ・開所日月平均 24 日、0 から 5 歳児の子育て親子が来所し、屋内外広い施設で親子のふれあいをより楽しめるように、あそびの提供を行い交流した。
 - ・年間延べ利用者数約 7,098 名、一日平均 24 名 親子数にして 10 組の利用があった。愛護会保育園が遠足の場所として来所し、さつまいもの苗植え収穫等、園児と親子が交流を深める機会を持った。
- ロ 子育て相談の充実
 - ・日々の寄り添い支援、電話等の機会を持ち、相談しやすい工夫に努めた。
 - ・子育て相談総数 合計 67 件。関係機関（町保健師・保育園）に、連携を図り進めた。
- ハ 育児に関わる情報の収集及び提供
 - ・新聞や広報等の記事を掲示。親子サークルの情報や地域のイベント等のチラシ掲示や配布をした。HP をみて、または町の子育て支援課・保健センターから紹介されて来所という方が増えている。
- ニ 子育てサークルの育成支援
 - ・各地区に子育てサークル 4 団体が活動している。子育て支援センターとして、サークルの紹

介や講座のPR等協力し支援した。

- ・親子サークル結集の取り組みとして、町民自主講座3回開催した。2回目は「わらべうたあそび」として、社会福祉法人アリノママ会前沢保育園園長・保育士の協力のもとに、親子49名の参加があった。また利用者親子と学童との交流の場も3回実施し、子育て支援センターが会場、事務局となりサポートした。

ホ 各関係機関などの連携

- ・孤立化防止のために関係機関（町保健師・保育園・療育相談専門員・民生委員・幼稚園）と、連絡を取り関わった。
- ・町家庭教育学級として、吉田智子氏子育て講座「乳幼児期の生活習慣の大切さについて」学び、親子17名の参加で子どもの生活を見直すきっかけになった。また、地域の民生委員3名を講師に「小正月行事についての話」や、みずき団子づくりを一緒に
行い、親子28名の参加で民生委員と親子と学童との交流になり、伝承行事にも関心を持つことができた。

《平成29年度具体的経営の課題》

1. 施設の運営方針

金ケ崎町から受託の地域子育て支援拠点事業金ケ崎町子育て支援センターは、地域で子育て中の親子あるいは、祖父母等を含めた方々を対象に、安心して子育てをしていくよう居心地の良い相談しやすい場の提供をする。

2. 具体的運営の課題

イ 地域に根ざした拠点として、いつでも誰でも気軽に利用できる交流の場を提供する。

ロ 子育て相談の充実

ハ 育児に関わる情報の収集及び提供

- ・プレママ ・パパディ ・生活習慣と親子ふれあい講座
- ・ふれあいコンサート ・ベビーマッサージ ・運動あそび ・離乳食教室

ニ 各地区に根差した子育てサークルへの支援

ホ 育児に関する情報の収集及び提供、情報配信、育児相談の実施

ヘ 職員の資質の向上

- ・親子への遊びの提供や関わりの振り返りから、スタッフ同士共通理解をする。
- ・地域や関係機関との連携から広く学ぶ事で、高め合うスタッフ集団を目指す。

(3) 障がい者援護事業部会報告

1、部会経営方針の取組状況

部会の目的「障がい者の生きがいを保障する環境づくり」に基づき、障がい者の求めるサービスの提供と権利を擁護する支援の充実を図るため下記部会【共通課題】に取り組んだ。

・既存建物の老朽化に伴う今後の対応

【取組状況】部会として4回の検討会を行った。興郷塾、希望の園それぞれの老朽化度調査を実施した。

【評価】残存率は興郷塾が建替え必要と出ている。希望の園の場合、緊急度はないが建替え必要率に近い数字になっている。建替えに向けた検討を今後は行う。

・利用者の実態（高齢化、障がいの多様化）に即した処遇技術の向上と環境の確立。

【取組状況】施設ごとに関係研修に参加・伝講を行うとともに関係書籍をそれぞれ購入した。

【評価】技術・知識の向上は諮られてきている。

・職員人材確保、育成（一人1研究、専門資格取得推進）

【取組状況】1研究は個々にテーマを設定し実践を開始している。資格取得も推進している。

【評価】資格取得への意識は高まっており、取得に向けた講座等の受講も進んでいる。

・地域との連携（ボランティア受け入れ）

【取組状況】援助事業部会と合同で受け入れ態勢を整え1日一斉に受け入れを行った。行事等での募集も都度おこなった。

【評価】行事等での受け入れは少ない、もっと受け入れに向けた工夫必要。

・通所日中活動事業の体制整備検討

【取組状況】検討会を4回行った。

【評価】とりあえずは各施設ごとに活動内容を振り返り、充実に向けた検討を行うこととした。

2、各施設の運営課題の取組状況

(1) 障がい者支援施設静山園

1. 施設の運営方針

愛護会の基本的理念の下、一人ひとりの自己実現に向けて以下の方針を掲げ実践した。

イ. 利用者の生き甲斐を保障するため、利用者本人、保護者、施設との三者で協議しながら個別支援計画の作成と見直しを実施し、一人一人の実態と要求を正しく把握し支援の充実を図る。

【状況・評価】一人ひとりのニーズの把握は進んでいて、それに基づいた支援の実践も行われている。保護者からの確認がタイミングよく、取れないケースがある。検討を要する。

ロ. 生活支援の実施に当たっては、個別支援計画に基づき充実した生活のための支援業務を進めていく。

【状況・評価】 おおむねは計画に基づき進められてきている。

ハ．日中活動、とくに生活介護の活動内容のさらなる研究実践を進める。また就労移行支援事業においては関係機関とのさらなる連携を図り本人の希望の実現の支援に努める。

【状況・評価】 活動内容の研究が進みいろいろな工夫が行われ楽しんで参加している姿が見られる。就労移行の関係機関との連携はスムーズになってきていて、本人の希望に沿った支援が進んでいる。

ニ．一人ひとりに合った健康管理(精神的な安定を含め)の推進。

【状況・評価】 精神的な安定の支援は徐々に良くなっていると思われるが、もっと研究必要。インフルエンザ等の感染症には対策の徹底が必要。

ホ．ヒヤリハット事例研究を推進し、施設の改善事故の予防・再発防止などに努める。

【状況・評価】 再発防止に向けた検討結果の周知をスピーディに行うが課題。

2. 課題

イ．要求と実体を正しくとらえた支援の推進

【総括】 要求にもとづいた支援は行われている。実体に沿った支援を行うための工夫も進んでいる。

ロ．安全・安心の提供、普段の点検の実施と定期的な訓練の実施

【総括】 建物、防災等の点検訓練は実施した。

ハ．日中活動・生活介護事業の体制の検討等と、より積極的に参加取り組める内容の研究、試行

【総括】 今年度も職員体制の整備はならなかったが活動内容の研究、試行は進み楽しんで参加している姿が多く見られた。

ニ．基本的な個々の生活リズムの再確立

【総括】 生活リズムの大切さを今後も継続して支援していく必要がある。

3. 併設、指定事業

イ．千養寺焼き陶芸館

【総括】 利用の広がりには欠けた。広がりに向けた研究必要。

ロ．短期入所事業と日中一時支援事業

【総括】 利用者がほぼ固定化してきており新規の利用者対応は難しい状態が続いている。相談は都度応じている。

(2) 障がい者支援施設 希望の園

1. 施設の運営方針

愛護会の基本理念に基づき利用者の求めるサービス提供の充実を図るため以下の方針を掲げ実践した。

イ．利用者の実態と要求を正しく捉えるため、利用者・保護者（後見人も含む）・施設の三者で協議しながら個別支援計画を作成し、利用者の自己実現を図るよう努めた。

ロ．日中活動支援「生活介護」においては、利用者の心身の状況に応じた自立の支援と日常生活の充実に資するよう個別支援計画に基づき必要な支援を行い、様々な活動を提供し、健康で楽しく過ごせるように努めた。

- ハ．施設入所支援においては、利用者の状況に合わせ施設環境整備の改善を進めながら、安心・安全で充実した生活ができるように支援に努めた。
- 二．地域移行に向けて、社会参加と体験訓練に努めた。
- ホ．食生活・健康管理は利用者個々の状況を把握し、疾病の早期発見、早期治療、適正な栄養管理のもと楽しく食事ができるように努めた。又、保健所や嘱託医の助言・指導を得ながら衛生管理の充実に努めた。
- ヘ．施設の安全確保のため、毎月安全点検並びに防災訓練を行った。ヒヤリハット事例の検証を推進し、施設運営の改善、事故防止に努めた。
- ト．地域住民との交流を積極的に行い、地域との連携を深めるよう努めた。

2. 施設運営の課題

- イ．利用者の高齢化・重度化に伴い、一人ひとりの状況を把握し充実したサービスの提供に努める。
【総括】利用者の高齢化に伴い、体調や状態の変化を把握しながらサービス提供に努めた。
- ロ．利用者の実態に即した職員配置と活動の検討、個別支援の在り方の研究を進める。
【総括】利用者の実態からみて職員増を目指したが、職員確保には至らなかった。活動や個別支援の在り方については、毎月の会議の中で検討し実施した。
- ハ．利用者の状況に添った生活環境の充実と衛生的な環境作りを目指す。
【総括】身体機能や免疫力の低下に伴い、転倒・疾病の発症が見られた。個別支援の充実と合わせ、事故の再発防止と衛生環境作りを行った。
- 二．適切な利用者支援の確保を図るため、苦情解決・虐待防止を推進しサービスの向上に努める。
【総括】苦情解決規程、虐待防止規程の共通理解及び研修伝講を実施し、サービスの質の向上に努めた。

3. 併設、指定事業

- イ．日中一時支援事業を奥州市の担当課と連携して、在宅障がい者の福祉の向上のため利用して頂くよう努める。
【総括】今年度利用される方はいなかった。

(3) 障がい者支援施設 興郷塾

- イ．利用者の意向に伴い、多様な福祉サービスを提供できる支援体制の充実に努める。
 - ・利用者個々の要望や実態に応じて、日中活動支援及び施設入所支援において、必要な体制を整備しサービス提供に努めた。
- ロ．利用者の重度・高齢化に伴い、利用者の実態を的確に捉え必要に応じた支援ができる職員体制の整備及び人材育成に努める。
 - ・年度当初に利用者の実態調査を実施し、必要なサービスが提供できる支援体制の充実に努めると共に必要な研修に積極的に参加させた。
- ハ．利用者の健康及び栄養管理の充実を図り、健康保持に努める。
 - ・日々のバイタルチェック及び適切な栄養管理のもと個々の嗜好や身体状況に応じた食事提供

により健康の保持に努めたが、個人による嗜好品の取り方で助言を必要とする利用者がおり、今後の嗜好品の取り方について協議を進めている。

又、各種検診により、疾病の早期発見と対応に努めた。

ニ．苦情処理、虐待防止の取り組みを推進し、適切な支援体制の確立に努める。

- ・苦情解決規程、虐待防止規程の共通理解を深め、権利擁護の意識を高めながら適切な支援できるように努める事ができた。

ホ．安心で安全な生活環境を保障するため、施設点検及び防災訓練を実施する。

- ・毎月の施設内安全点検及び防災訓練を実施し、居住環境の改善に努めると共に災害時における防災意識を高め対応について学ぶことができた。

利用者の状況として、高齢化に伴い身体機能が低下してきているため介護度が高まり、住環境の整備が優先的な課題である。

(4) 障がい者福祉サービス事業所 フラワーセンターあいご

イ．地域生活者の生産活動の拠点として、利用者のニーズを正しく導き出し、個々の願いに応じて自立した社会生活が営めるように支援体制の充実に努める。

- ・利用者のニーズに基づいて、個々の抱えている課題や問題事例等に対応しながら安定した利用と社会生活が営めるように支援体制の充実に努めた。

ロ．地域生活者の生活の安定を図る為、生産体制の充実を図り、工賃アップに努める。

- ・今年度は国体需要があり、作業収入が増収したことから予定通り時給単価を 10 円アップし 170 円にすることができた。その他にも 12 月に特別手当として 50,000 円、4 月に年度末手当として 41,000 円を支給することができた。

ハ．多様化する福祉ニーズに応じていくため、職員の資質向上に努め、福祉サービスの充実を図り、利用促進に努める。

- ・個々の状況に応じて安定した利用ができない方がおり、地域援助センターとの連携を図りながら対応に努め利用率低下を防ぎ、推移することができた。

職員の研修等に関しては、生産需要の拡大に伴い、作業が忙しくなり、研修の機会が少なかったため、今後は積極的に研修に参加できるように日程調整等に努める。

ニ．利用者の高齢化や利用拡大に対応していくため、状況に即した環境改善及び施設整備の促進に努める。

- ・駐車場の整備等、計画に沿って環境整備に取り組んだ。需要の拡大に伴い、生産量が増大し作業スペースが手狭になっており、検討が必要とされる。

(5) 障がい者福祉サービス事業所 フレンドワークさくらかわ

イ．地域生活者の生産活動の拠点として、利用者のニーズを正しく導き出し、個々の願いに応じて自立した社会生活が営めるように支援体制の充実に努める。

- ・働く場として、個々のニーズに沿った支援に努めてきているが、現況の生産体制に対応できない方も出てきており、本人の意向を確認しながら利用日数の調整や活動内容の見直し、他事業所への移行等を支援している。

ロ．地域生活者の生活の安定を図る為、生産体制の充実を図り、工賃アップに努める

- ・企業からの受注量が安定せず作業収益が減少する。企業側と改善策について協議を進めてきたが、思うような成果は得られず当初予定していた時給単価をアップする事は出来なかった。新年度に向けて新たな生産品目の導入や単価交渉を進める予定になっている。
- ハ. 多様化する福祉ニーズに応じていくため、職員の資質向上に努め、福祉サービスの充実を図り、利用促進に努める。
- ・様々な問題を抱えている利用者さんが増加してきており、通所利用の安定を図るため、特に精神障害者さんの支援スキルを高めるための研修会等に積極的に参加させている。
- 二. 利用者の高齢化や利用拡大に対応していくため、状況に即した環境改善及び施設整備の促進に努める。
- ・利用者の高齢化に伴い、個々の状況に応じた働き方の検討を行うと共に無理のない作業環境を整えるため野菜加工班の第二作業場を設置し、作業体制の分業化を整備した。

(4) 障がい者地域生活援助事業部会報告

部会全体の取組状況

1. 地域生活援助事業部会として総括と課題

1. みんなの幸福を創り育てる福祉文化の構築
2. ノーマライゼーションの理念である「あたりまえの生活・普通の暮らし」
3. ソーシャルインクルージョンを可能にする環境づくり

今後この長期計画、課題を可能にしていくためには、各ポジションの役割を確立し、地域を含めたネットワークをさらに強化し互いに理解しあうことが必要であり信頼関係を確立することも大事である。また、あたりまえの生活、普通の暮らしをいろいろな支援を得ることで可能にし、地域に暮らす障がい者の方々が普通の暮らしができることを目標に、今後も利用者のニーズに即した支援に努めていきたい。また、現在の地域での支援を考えるならば法人独自での取り組みは難しく、様々な事業関係者と協力することも、より大きな成果に繋がって来ている。

実践と課題

1. 我々が今後行うべき事は、支援の内容を充実し、より人間味のある、配慮された支援であることが大事になってくる。また、今後地域で暮らす障がい者の皆さんに少しでも日常生活が安心して暮らせるよう支援していく事も必要である。このような一つひとつの積み重ねが地域に浸透し、認められることで障がい者への理解、あるいは差別といったことがなくなり地域全体で障がい者を包み込む社会つまりインクルージョン的な社会を作り上げることが更なる課題である。
2. 各事業のネットワークの充実、行政、各関係機関、他法人や地域の人たちとの、更なる強いネットワークを築くことで、今後グループホームを各地区に拡大し地域の理解と、係わりを重視しながら障がい者への理解を深めてもらうことが今後も引き続き必要である。
3. 部会の今後の大きな課題として掲げていくことは、24時間安心して安全な地域生活ができる毎日を家族、利用者に提供する事だと考える。現在グループホーム27ヶ所(定員112名、利用者現在107名)中2つのグループホームに夜間支援員を配置している。このようなグループホームが増えていくことは、確実であり支援の在り方をより研究し確立していくことが、24時間地域生活を保障する事につながり安心、安全へとつながる。あらゆる問題を考慮し個々の支援を大事にしていく必要があると考える。また、このような利用者の次の生活の場を見極めていく事も大きな課題のひとつである。今年度も障がい者福祉サービスだけではなく介護保険サービスの支援も利用し、デイサービス、短期入所、特別養護老人ホームへの移行(2名)も視野に入れる事で広範囲にサービスの内容も変わって来ている。

4. グループホームで生活している方々が 107 名となり個別のニーズが多様化してきており全てのニーズに応えることは不可能である。しかし要望に応えるためには、地域資源を利用するなどして要望をかなえる様最大の努力は必要であり、地域で生活していて良かったと思ってもらえるよう支援の効率化を図ることが今後必要と思われる。
5. 各職員の長所をいかに伸ばすか、またいかに働きやすい環境を整えられるか大事である。職員の不満や悩みを速やかに解決し、個々の環境を常にベストの状態に整えることが上司としての役割であり課題であると考えている。また、職員の国家資格取得に対する意欲が非常に強くなって来ている。

2. 各事業の具体的運営課題に対する取組み内容と成果

(1) 地域生活援助センター

地域生活援助センターは、グループホームとその利用者の直接支援のためのバックアップ拠点としての位置付けである。具体的に、本人の身体、精神、及びその置かれている環境に応じて、利用者が地域において共同で日常生活が営めるように共同住居の中で、食事の提供、健康、金銭管理、相談その他日常生活の援助を適切、円滑に行うため、以下の方針で業務を進めた。

- 1 地域で生活するグループホーム利用者の個々の実態と要望、ニーズを正しく捉え、利用者の主体性を尊重し、個別支援計画に基づき、個々の状況にあった自立を支えていくよう努めた。
- 2 グループホームでの生活がより豊かなものであるように住居空間の拡大、一人一人が安心し、地域で生活できるような質の向上を目指した。
- 3 利用者の地域との付き合いは重要な事であり、各グループホーム単位で地域の行事や清掃に参加し、太陽の会のボランティア活動などを通じて、積極的に地域との交流を行うように努めた。
- 4 グループホームの安全確保、非常災害に備える為に必要な毎月の訓練をおこなった。また法人内外の災害研修に参加し、災害時の対応について理解を深めた。

具体的運営課題

- ①グループホームで暮らす利用者の安全確保のために、消防法に基づく誘導灯等の設置を進めていくことが課題である。
- ②精神障がいを持つ方、高齢な方など様々な特性をもつ利用者がおり、職員一人ひとりが様々な特性に対応した支援方法について理解していくとともに、利用者との信頼関係を築くよう努めていくことが課題である。
- ③利用者の多くが様々な気持ちの弱さや、精神疾患を抱えながら働いていることから、障がい者を理解して頂くとともに、一般企業との信頼関係を築いていくことが課題である。
- ④関係機関と連携を図ることが多くなっていることから、職員の接遇等の向上が課題である。
- ⑤グループホームが 27 ヶ所となり職員数とも増えていることから、職員間の連携をい

かに調整していくかが課題である。

(2) 胆江障害者就業・生活支援センター（雇用安定等事業・生活支援等事業）

（雇用安定等事業）

平成 28 年度の当センターにおける職場実習件数は 67 件、新規就労件数は 51 件となっている。目標よりも順調に取り組むことができた。実習件数は昨年度なみ、就職件数については、昨年度よりも多い状況である。昨年度に続き精神障がい者、発達障がい者の就業相談が増加してはいるが精神障がいの方の支援については、も少し増加すると予想していたが、思うほど数値は伸びなかった。

平成 30 年度から、精神障がい者雇用義務化が開始になるにあたって、支援の増加と強化が課題と予想するため、今後も、関係機関と協力して事業を運営していきたいと考える。

（生活支援等事業）

今年度は、結婚生活を送っている障がい者と、その子育てに係る支援が特筆すべき支援であった。関係機関と連携して支援してきたが、金銭管理についての支援が難しく、自宅と車を一度に購入してしまい、販売店とトラブルになることもあった。

また单身生活を行っていた方が、統合失調症を発症し遠方の家族と連携をとることが難しいケースもあった。法人内で県内から利用者を獲得していた経緯もあり、保護者の世代交代も重なり支援に苦慮しながら、就業継続できるよう支援してきた。

生活スタイルが多様化してきており、様々な支援があるため引き続き関係機関と連携を図りながら支援を展開していきたいと考える。

(3) 指定相談事業所愛護会障害者相談支援センター

奥州市、金ケ崎町から委託を受けている相談については、相談の基本として対応をしてきた。行政側から困難ケースなどを持ち掛けられる場合もありセンター全体で共有しながらより良い支援を模索してきた。特に身体障がい者の在宅復帰についての支援については、モニタリングをしながら支援を検討している。

サービス等利用計画については、安定した運営となっている。法人内が大部分を占めている。今後も丁寧にモニタリングをしていきたいと考えている。

(4) 訪問型職場適応援助者事業

平成 28 年度は訪問型職場適応援助事業の支援対象者はいずれも支援学校を卒業した知的障がい者 2 名であった。それぞれ食肉加工業 サービス業に従事している。年度終了月において 2 名とも雇用が継続され、事業所の理解と良好な雇用管理のもとに、ナチュラルサポートに移行しつつある。平成 29 年度の 6 月まで両名のフォローアップは継続される。

(5) 生活介護事業所 ときわ寮

平成 27 年度の大規模改修が終了し実質的な初年度となる平成 28 年度は、第 3 次 5

ケ年計画に沿って、利用率の向上(定員充足)を最大の課題として事業に取り組みパンフレットの作成と配布、ブログの定期的な更新等での広報活動にも努めた。利用率については、関係機関等の協力で年度の後半には、ほぼ100%を達成することができた。

利用者の高齢化に対する対応は、通院時等の引継等を確実にを行い情報の共有化を図り体調の変化等の見落としが無いよう努めた。年度途中で看護職員が退職したことで、健康管理面での支援が不安な状況での運営となった。

日中活動サービスでは、生活介護の主要サービスとしての入浴の支援を利用者の半数以上が利用しており在宅の利用者の入浴サービスのニーズも多いが、職員体制的に対応が難しくなっている。創作活動等では、利用者個々が思い思いの活動に取り組んでおり、職員と一緒に図書館にでかけ好きな本を借りてくるなど社会資源の利用を活動メニューの一つとして行っている。生産活動では、年度の後半に作業の受注量を減らしたことで作業に余裕ができその分をドライブ等の他の活動に利用することができるようになった。

(6) 地域活動支援センター いこいの家

平成28年度は、市町村の地域生活支援事業に基づき地域活動支援センターとしての特徴である使い勝手の良い事業所、障害福祉サービスの入り口的な施設として日中活動の支援を事業計画に沿って実施した。

年度当初は、平日の利用者が少なく利用者を増やすため地域生活援助センター、相談支援センターの協力を得て平日の利用者を増やすように努めた。日中活動の充実や休日余暇活動の開拓は利用者の要望を聞きながらニーズに応じてメニューの開拓を進めた。特に平日の日中活動は精神障がいの方の利用が増え生産活動とドライブを希望する方が多く支援内容にゆとりを持たせるよう支援した。

休日余暇支援についてはニーズが依然として高く利用希望の多いメニューの時は出来るだけ断わずに臨時開所をして対応している。

利用登録は、GH利用者より在宅者の増加が見られた。又、登録者の年齢及び障がい特性が多様化してきている為支援内容についてもニーズに即した個別的な対応を行った。今後の利用者状況にもよるが在宅者が増えるにつれ送迎範囲が広がり送迎体制を整備すると共に利用者支援の多様化への対応のため職員体制も併せて整備する必要があると考える。

(5) 長寿福祉事業部会報告

1. 部会全体の取組み状況

長寿福祉事業の基本方針である「長寿とやすらぎを提供する環境づくりの研究と実践をすすめる」に基づいて、やすらかな生活を送りながら長生きすることが出来る環境づくりを目指し取り組んで来た。

入居者支援については、基本的な実践は出来ていたと考えるが介護職員不足等により既存職員に負担がかかった現状がある。ゆとりある支援、安心する支援、喜ばれる支援体制づくりの為に早期の人材確保が急務であると共に、長期的な事業安定を視野に入れた職員体制の構築が重要と捉えている。

また、職場環境づくりに向けて利用者・家族・職員からの意見・要望を参考にしながら福祉施設としての役割を果たす為の環境整備に努めてきた。行事等は概ね計画通りに実施出来たが、日常における「やすらぐ、楽しむ、行動する」等の余暇支援活動がまだ不足しているので、利用者の笑顔が多く見られるような活動を実践したい。

昨年には「改善提案委員会」を設置しており、些細な事から施設全体に及ぶまで業務以外のことも含め提案を頂き、職員が必要と思われたことを少しずつ実践し改善して来た。提案されたことは直ぐに実践するようにし、利用者が生活し易く、職員が働きやすい環境整備に努めた。尚、挨拶や一般常識に至るまで、現場の意見も参考にしての提案であり、その内容を各ユニットミーティング等で協議し「運営委員会・職員会議」にて確認して来た。協議・確認されることに重大な意義があると捉えており、それによって方向性が導き出され愛護苑としても成長が出来る则认为る。

今後においても、利用者目線にて施設経営体制の確立を進めていく。

一日も早く、利用者や家族の方々が利用して良かったと思って頂ける施設になれるよう、全職員で創意工夫をしながらお互いに成長して行けたらと考える。

利用者の尊厳ある暮らしの実現に向けて、愛護苑として力になれるよう努め全ての部門でのチームワークを発揮し、より良いサービスの構築を図って行くことが重要と捉えている。

2. 部会業務課題の取組み状況

〔1〕入居者、家族が安心して利用出来る施設体制づくり

自宅での生活に近いものを目指しながら支援させて頂いているが、現状は介助(食事・入浴・排泄等)中心の支援となっている。勿論、生活の重要な部分であり、そして施設の重要な役割であるのできっちりと実践することが大前提であるが、楽しむ・行動する等の余暇支援活動をもう少し取入れ、入居者の笑顔が見られる活動を目指したいと考える。

家族からは、感謝の言葉を多く頂くようになってきたが、中には意見・要望等を遠慮されている家族もおられる。意見・要望が無いから、言われ無いから良い施設と言うのではなく、常にきっちりとした支援・対応を行うことが大事と考える。

〔2〕福祉サービスの質の向上に向けた業務改善

業務マニュアルの標準化は、マニュアル検討委員会を中心に見直しを図ってきた。信頼される施設づくりの為に、ユニットミーティングや各種会議等で現場の意見を集約し、改善の必要性のあるものについては、業務の見直しや検討を進めてきた。

又、「改善提案委員会」からは、利用者の環境改善や職員が働きやすい環境をつくる為の提案も出されており、少しずつ改善されている。

〔3〕利用者処遇に必要な職員体制の構築

長期的な事業安定を視野に、職員配置の適正化を図る必要がある。

介護職員の人手不足により、運営自体に厳しい状況にあったが、既存職員の協力により利用者支援を行うことが出来た。但し、ゆとりある支援、安心する支援、そして喜ばれる支援をする為の早期人材確保が急務であり、長期的な事業安定を視野に入れた職員体制の構築が重要と捉えている。

よって、人材確保には介護職員の給与改定が不可欠と判断し、法人に相談。

改定によって、知人や友人の紹介依頼、ハローワークにて募集したところ3月と新年度の4月には7名の職員を確保することが出来た。他業種からの転職組で研修中の職員もいるが、全員が定着することにより、各ユニット常勤介護職員5名・パート1名の職員体制を構築出来る。今後は、定着させられるかがカギと考える。

〔4〕短期入所事業の利用促進

居宅介護支援事業所等のご協力、関係職員の努力により約85%の稼働率を確保することが出来た。しかし、高齢であることから予約を頂いた方が体調不良等により、急遽キャンセルになる場合が頻繁にあった。よって、キャンセルで空いたところは、空床情報を事業所へお知らせするようにしていた。

いずれにしても、安定的な施設運営をする為には、定期的に利用頂ける方を如何に多く確保するかが課題と考える。

地域に開かれた事業運営の状況

1. 福祉関係養成校等の研修生等受入状況(平成28年度)

学校名	実人数	延べ人数/日	受入施設
専修大学北上福祉教育専門学校	1	10	金ケ崎保育園
盛岡大学短期大学部	3	30	金ケ崎保育園
仙台子ども専門学校	1	3	金ケ崎保育園
白鷗大学	1	10	東水沢保育園
仙台青葉学院短期大学	1	20	東水沢保育園
盛岡大学短期大学部	2	20	東水沢保育園
修紅短期大学	1	11	東水沢保育園
専修大学北上教育福祉専門学校	1	10	東水沢保育園
協和学院水沢第一高等学校	2	10	東水沢保育園
公務員ビジネス科警察消防コース	2	4	東水沢保育園
盛岡大学短期大学部	2	6	東水沢保育園
水沢農業高等学校	7	7	東水沢保育園
専修大学北上福祉教育専門学校	3	30	たんぼぼ保育園
修紅短期大学	1	10	たんぼぼ保育園
石巻専修大学	1	10	たんぼぼ保育園
盛岡大学短期大学部	2	20	たんぼぼ保育園
東北福祉大学	1	10	第二東水沢保育園
修紅短期大学	1	10	第二東水沢保育園
盛岡大学	2	2	金ケ崎町子育て支援センター
仙台青葉学院短期大学	1	10	静山園
仙台医療福祉専門学校	1	23	静山園
合計	37	266	

2. ボランティア受入状況(平成28年度)

学校名・氏名等	実人数	延べ人数/日	受入施設
金ケ崎町立金ケ崎中学校	24	24	金ケ崎保育園
鈴木健仁さん(読み聞かせ)	1	1	金ケ崎保育園
盛岡大学短期大学	1	1	金ケ崎保育園
奥州市立水沢南中学校	1	1	金ケ崎保育園
金ケ崎町立金ケ崎中学校	153	153	金ケ崎保育園
岩手県立岩谷堂高等学校	4	4	東水沢保育園
岩手県立水沢農業高等学校	2	2	東水沢保育園
岩手県立前沢高等学校	8	8	東水沢保育園
協和学院水沢第一高等学校	4	4	東水沢保育園
盛岡大学短期大学部	1	1	東水沢保育園
白鷗大学	1	1	東水沢保育園
保育体験生徒(中学生)	8	16	東水沢保育園
保育体験生徒(高校生)	62	102	東水沢保育園
金ケ崎町立金ケ崎小学校	67	129	たんぼぼ保育園
金ケ崎町立金ケ崎中学校	27	48	たんぼぼ保育園
岩手県立金ケ崎高等学校	18	22	たんぼぼ保育園
奥州市立東水沢中学校	6	6	第二東水沢保育園
奥州市立水沢中学校	16	16	第二東水沢保育園
奥州市立水沢南中学校	16	16	第二東水沢保育園
盛岡大学短期大学	3	9	第二東水沢保育園

地域の方(草刈り)	3	3	金ケ崎町子育て支援センター
社会人、学生(折り紙教室1、三味線1、県社協2)	4	4	静山園
いなほの会	5	5	希望の園
ハンドベルサークルレインボー	8	8	希望の園
利用者家族	4	4	希望の園
いなほの会	5	5	興郷塾
水沢高等学校音楽部	11	11	興郷塾
わんこダンスキャラバン	5	5	興郷塾
国際医療福祉専門学校一関校	3	3	地域生活援助センター
颯人(さつつ)和太鼓(わだいこ)の会	12	12	地域生活援助センター
見分森カラオケ同好会	16	16	愛護苑
金ケ崎保育園(保育士)	3	3	愛護苑
YM3やまもも	7	7	愛護苑
たんぼぼ保育園(園児・保育士)	30	30	愛護苑
黒田助獅子舞保存会	12	12	愛護苑
合計	551	692	

3. 施設内行事等への地域住民の受入状況(平成28年度)

行事内容	実人数	受入施設
子どもまつり	9	金ケ崎保育園
じゃがいも植え	1	金ケ崎保育園
さつまいもの苗植え	3	金ケ崎保育園
自然観察会	1	金ケ崎保育園
運動会	43	金ケ崎保育園
さつまいも掘り	2	金ケ崎保育園
総合避難訓練	3	金ケ崎保育園
クリスマス会	40	金ケ崎保育園
小正月行事	7	金ケ崎保育園
お店やごっこ	36	金ケ崎保育園
ふれあい会(分室)	3	東水沢保育園
ひなまつり(分室)	4	東水沢保育園
子どもまつり	15	東水沢保育園
夏まつり	65	東水沢保育園
運動会	81	東水沢保育園
文化祭	90	東水沢保育園
ちぎり絵教室	3	東水沢保育園
表現発表会	12	東水沢保育園
小正月	18	東水沢保育園
ひなまつり	16	東水沢保育園
節分	3	東水沢保育園
総合避難訓練	4	東水沢保育園
味噌づくり	3	東水沢保育園
子どもまつり(民生児童委員との交流)	3	たんぼぼ保育園
さつまいもの苗植え	1	たんぼぼ保育園
七夕集会(横道上下老人クラブとの交流)	9	たんぼぼ保育園
収穫祭(高谷野老人クラブとの交流)	5	たんぼぼ保育園
運動会	29	たんぼぼ保育園
文化祭	30	たんぼぼ保育園
小正月行事(谷地上下老人クラブとの交流)	10	たんぼぼ保育園

発表会	33	たんぽぽ保育園
節分行事(藤巻老人クラブとの交流)	10	たんぽぽ保育園
餅つき	5	たんぽぽ保育園
こどもまつり	60	第二東水沢保育園
夏まつり	8	第二東水沢保育園
運動会	18	第二東水沢保育園
文化祭	32	第二東水沢保育園
総合避難訓練	5	第二東水沢保育園
表現発表会	9	第二東水沢保育園
小正月	9	第二東水沢保育園
節分	3	第二東水沢保育園
ひなまつり	16	第二東水沢保育園
夏まつり	7	金ケ崎町子育て支援センター
小正月行事	8	金ケ崎町子育て支援センター
福祉の森 秋まつり	1	静山園
あすなろ会との交流会	24	希望の園
黒田助獅子舞	12	興郷塾
太陽の会感謝祭	6	地域生活援助センター
敬老会	5	愛護苑
黒田助獅子舞	12	愛護苑
合計	832	

4. 地域行事等への参加状況(平成28年度)

行事内容	実人数	参加施設
金ケ崎町夏まつり むかでマラソン	37	金ケ崎保育園
金ケ崎町街地区文化祭	109	金ケ崎保育園
町内会泉公園草取り	15	東水沢保育園
原中5区町内会夏まつり	10	東水沢保育園
原中5区町内会新年会	1	東水沢保育園
原中5区町内会総会	2	東水沢保育園
金ケ崎町夏まつり	90	たんぽぽ保育園
金ケ崎町藤巻地区新年会	2	たんぽぽ保育園
原中5区町内会夏まつり	24	第二東水沢保育園
原中5区町内会新年会	1	第二東水沢保育園
町内会泉公園草取り	11	第二東水沢保育園
原中5区町内会総会	1	第二東水沢保育園
警察犬競技大会	1	静山園
ふれあいの丘公園花壇花植え作業	3	静山園
メイプルフリーマーケット	2	静山園
羽田躍進まつり	1	静山園
第4回歳末助け合い演芸大会inかねがさき	1	静山園
奥州市チャレンジデー	60	希望の園
警察犬錬成大会	2	希望の園
黒田助地区早朝草刈作業	1	希望の園
ふれあいの丘公園花壇花植え作業	15	希望の園
奥州市チャレンジデー	50	興郷塾
ふれあいの丘公園夏祭り	60	興郷塾
黒田助振興会総会	3	興郷塾
ふれあいの丘公園花壇花植え作業	10	興郷塾

警察犬錬成大会	3	フラワーセンターあいご
福祉の森秋まつり	6	愛護苑
合計	521	

5. 地域福祉関係者や市民団体との交流会等への参加状況(平成28年度)

行事内容	実人数	参加施設
金ケ崎町シニアスポーツ大会	31	金ケ崎保育園
愛護会愛護苑入居者との交流(夏祭り)	22	金ケ崎保育園
うたの花束コンサート	25	金ケ崎保育園
金ケ崎町老人クラブ連合会演芸大会	33	金ケ崎保育園
安久戸・瀬台野地区敬老会	21	東水沢保育園
介護施設サービス「どんぐり」慰問	22	東水沢保育園
岩手県国民体育大会炬火式	50	東水沢保育園
岩手県国民体育大会開始式	50	東水沢保育園
いわて銀河フェスタ2016	30	東水沢保育園
シルバースポーツ大会	25	たんぼぼ保育園
金ケ崎町南方地区敬老会	23	たんぼぼ保育園
金ケ崎町老人クラブ連合会演芸大会	25	たんぼぼ保育園
産直来夢くんJAまつり	24	第二東水沢保育園
デジアイズさんのカルガモ出発式	24	第二東水沢保育園
ゆうゆうタウンへの訪問交流	24	第二東水沢保育園
第17回岩手県障がい者スポーツ交流会	14	静山園
平成27年度水沢区ボランティアフェスティバル	2	静山園
第20回スポーツ交流会	11	静山園
アテルイの里障がい者芸術祭	4	静山園
第15回前沢福祉の里まつり	1	静山園
第14回福祉まつり	2	静山園
知的障害者福祉協会スポーツ大会	1	希望の園
いわて国体(卓球競技)応援	12	興郷塾
知的障害者福祉協会スポーツ大会	3	興郷塾
岩手県障がい者スポーツ大会	2	興郷塾
ふれあいランド岩手リフレッシュ教室	45	興郷塾
ユープ福祉まつり	5	フラワーセンターあいご
羽田躍進まつり	2	フラワーセンターあいご
アテルイの里障がい者芸術祭	5	フラワーセンターあいご
前沢福祉の里まつり	6	フラワーセンターあいご
美山病院食と健康まつり	2	フラワーセンターあいご
合計	546	

6. 社会貢献活動等の取組状況(平成28年度)

取組内容	実施施設
幼年消防防火パレード	金ケ崎保育園
金ケ崎町壇原地区早朝道路清掃	金ケ崎保育園
金ケ崎町街地区センターグラウンド草取り	金ケ崎保育園
防犯広報活動	金ケ崎保育園
赤い羽根共同募金街頭募金	東水沢保育園
幼年消防防火パレード	東水沢保育園
風の子農園収益寄付(5歳児)	東水沢保育園

泉公園草取り作業	東水沢保育園
幼年消防防火パレード	たんぼぼ保育園
赤い羽根共同募金街頭募金	たんぼぼ保育園
赤い羽根共同募金街頭募金	第二東水沢保育園
幼年消防防火パレード	第二東水沢保育園
風の子農園収益寄付(5歳児)	第二東水沢保育園
中高生と施設との交流会	第二東水沢保育園
非特定営利法人ポープラザとの交流会	第二東水沢保育園
赤い羽根共同募金街頭募金	静山園
一般市民及び市老連等々の団体対象の陶芸教室開催	静山園
赤い羽根共同募金街頭募金	希望の園
赤い羽根共同募金街頭募金	興郷塾
ふれあいの丘公園清掃作業	興郷塾
Iwate・あんしんサポート事業(生活困窮者へ経済的援助)	愛護苑